

# 第 402 回

## 日本泌尿器科学会新潟地方会

### 《 プログラム・抄録 》

日 時：令和 4 年 9 月 10 日（土）14 時 00 分  
会 場：パストラル長岡 5 階 末広の間  
長岡市今朝白 2 丁目 7 番 25 号  
TEL：0258-35-1305

次回 第 403 回 新潟地方会 予告

日時：令和 4 年 12 月 10 日（土）午後 2 時

会場：未定

演題申込期限：令和 4 年 11 月 18 日（金曜日）

※すべて PC のみの発表とさせていただきます  
※一般口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757  
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
TEL：025 (227) 2289 / FAX：025 (227) 0784  
会長 富田 善彦

14:00~14:05

開会の辞

日本泌尿器科学会新潟地方会会長

富田 善彦

14:05~14:45

座長 晝間 楓

1. 免疫チェックポイント阻害薬投与後に腎摘除を行った転移性腎細胞癌の3例

長岡赤十字病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、新潟県立中央病院 泌尿器科<sup>2)</sup>  
佐波 達朗<sup>1)</sup>、乾 幸平<sup>2)</sup>、黒木 大生<sup>1)</sup>、鈴木 一也<sup>1)</sup>、米山 健志<sup>1)</sup>

【症例1】75歳男性。2018年5月左腎細胞癌 cT3aN0M1(肺、頸椎)の診断、頸椎放射線療法後に sunitinib、axitinib 投与も PD、nivolumab 開始し骨病変以外は縮小、9コース施行後 cytoreductive nephrectomy(CN)施行。術後7コース追加、現在は無治療で病勢増悪なし。【症例2】51歳女性。2020年11月右腎細胞癌 cT3aN1M0 の診断、ipilimumab-nivolumab 投与にて PR、18コース投与後に腎摘除+傍大動脈リンパ節郭清施行され、現在まで再発なく経過。【症例3】67歳男性。2011年右腎細胞癌 cT1aN0M0 に対して NSS 施行。2020年1月に両腎転移、右腎門部リンパ節転移、肝転移、多発骨転移。骨病変に放射線療法後、同年5月から ipilimumab-nivolumab 開始し全病変で PR 判定、29コースまで投与後、左 cytoreductive NSS 施行。現時点で画像フォローは未施行。免疫チェックポイント阻害薬に関連する CN の明確な指針は現状示されていない。若干の文献的考察を含め報告する。

2. 膀胱癌多発転移に対するゲムシタビン+カルボプラチン化学療法、ペムブロリズマブ療法による完全寛解後、顕在化した原発性肺癌に対する根治的切除術を行った症例の経験

新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、病理診断科<sup>2)</sup>、放射線診断科<sup>3)</sup>、  
呼吸器内科<sup>4)</sup>、呼吸器外科<sup>5)</sup>  
中村涼太<sup>1)</sup>、原昇<sup>1)</sup>、西山 勉<sup>1)</sup>、長谷川剛<sup>2)</sup>、池田洋平<sup>3)</sup>、大橋和政<sup>4)</sup>、橋本毅久<sup>5)</sup>

68歳男性が膀胱癌多発肺転移を指摘され当科を受診した。膀胱癌は病理組織学的には尿路上皮癌扁平上皮分化優位の所見であった。ゲムシタビン、カルボプラチンによる化学療法に著効し、その後ペムブロリズマブ療法を行い、完全寛解状態となった。治療過程で膀胱癌の転移とは異なる右肺下葉の病変が顕在化し、原発性肺癌と診断した。ほかに転移はなく、胸腔鏡下根治的右下葉切除術を行った。肺癌は ALK 陰性、EGFR 遺伝子変異陽性、PD-L1<1%の腺癌であった。

3. 早期陰茎癌に対して陰茎温存手術を施行した1例

立川総合病院 泌尿器科  
中山 亮、諏訪 通博、上原 徹

症例は64歳男性。陰茎の冠状溝を中心に広がる緩徐増大傾向のφ3cm大腫瘍性病変に対して陰茎温存手術を施行した。病理組織で非浸潤扁平上皮癌も断端陽性の診断であったため追加切除を施行したが、残存病変は認めず、その後も再発なく経過している。制癌性を損なわずに陰茎温存をすることができた本症例の治療経過を若干の文献的考察を加えて報告する。

4. 肝転移に対して緩和照射を施行した進行性腎癌の1例

新潟県立中央病院 泌尿器科  
山口 峻介、乾 幸平、水澤 隆樹、片桐 明善

症例は、79歳女性。当科初診時、左腎癌、多発肝転移 cT1aN0M1 の診断。全身治療として、各種逐次治療を施行していたが、初診から約11か月経過後、右側腹部痛を主訴に当科受診。CTにて多発肝転移の増大を認め、疼痛コントロール目的に当科入院。オピオイドによる鎮痛と併用し、多発肝転移への緩和照射(20Gy/10fr)を施行した。照射にともなう有害事象は認めなかった。本邦では、転移性肝癌への緩和照射は報告が少ない。本症例について、若干の文献的考察を加えて報告する。

## 5. 前立腺癌の遺伝子検査の現状と課題

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

石崎文雄、村田雅樹、晝間楓、風間明、武田啓介、安楽力、田崎正行、丸山亮、山名一寿、富田善彦

転移性去勢抵抗性前立腺癌に対しオラパリブが保険承認され遺伝子パネル検査や BRCA 遺伝子検査が行われる機会は増えているが、まだ広く浸透したとは言えない状況である。前立腺癌では今後もゲノム情報を基にした個別化医療の動きは進んでいくと思われる。実臨床でそのメリットを享受する患者もみられる一方で、薬剤到達率の低さなどがゲノム医療の課題も見えてきた。これらがゲノム医療の課題と遺伝子検査を見据えた日常診療のポイントについて述べたい。

## 6. 膀胱水圧拡張術が奏功した免疫関連膀胱炎の 1 例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、新潟市民病院 泌尿器科<sup>2)</sup>

安楽力<sup>1)</sup>、今井智之<sup>2)</sup>、笠原 隆<sup>2)</sup>、川上芳明<sup>2)</sup>

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) による免疫関連有害事象 (irAE) が尿路に発症することは非常に稀で、膀胱炎はこれまで 9 例のみが報告されている。また、irAE 治療には通常ステロイドが使用されるが、ICI の抗腫瘍効果を減弱するかどうか議論のあるところである。今回、我々は膀胱水圧拡張術により治療しえた免疫関連膀胱炎の 1 例を経験したので報告する。

## 7. 後腹膜原発神経内分泌腫瘍の 1 例

新潟県立新発田病院 泌尿器科

小松集一、宮島憲生、波田野彰彦

神経内分泌腫瘍は膵・消化管及び肺が好発部位であり、後腹膜原発は非常に稀である。症例は 35 歳女性。検診の胃透視像で異常を指摘され、2011 年 10 月当院を初診した。自覚症状はなく、CT 等精査の結果、左副腎偶発腫瘍 (非機能性) を疑われた。2012 年 2 月、左副腎摘除術を施行し、病理学的に神経内分泌腫瘍 G2 (WHO2010)、切除断端陽性と診断された。術後全消化管を精査するも原発巣は指摘できず、転移ではなく後腹膜原発と判断した。補助療法としてオクトレオチド筋注 (4 週に 1 回) を 2 年 2 ヶ月間施行し、術後 10 年経過時点で再発を認めていない。

## 8. 尿道下裂修復術後の尿道狭窄症に対して、Blandy 法による尿道会陰瘻を作成した 1 成人症例

新潟大学大学院医歯学総合研究科、腎泌尿器病態学分野<sup>1)</sup> 高橋クリニック<sup>2)</sup>

小原健司<sup>1)</sup>、星野さや香<sup>1)</sup>、晝間 楓<sup>1)</sup>、星井達彦<sup>1)</sup>、富田善彦<sup>1)</sup>、高橋 等<sup>2)</sup>

症例は 51 歳男性。主訴は高度排尿困難、排尿痛、右陰囊内容の硬結と膿排出。当院初診時、外尿道口は陰茎陰囊移行部に認め、外尿道口からは 4Fr Atom tube も挿入し得なかった。また、右陰囊皮膚を通して膿排出を認めた。4 歳時の陰茎陰囊部尿道下裂に対する初回修復術以降、計 4 回の手術を受けていた。Blandy 法による尿道会陰瘻を作成し排尿状態は改善した。

《休 憩 15 : 25~15 : 55》

泌尿器科専門医共通講習会（医療倫理）

15：55～16：55

座長 富田 善彦

演者 新潟大学大学院保健学研究科 教授

宮坂 道夫 先生

演題 医療倫理の理論と方法 ～臨床での問題事例にどう対応するか～

専門医共通講習（医療倫理）1単位が認められます。単位を取得したい場合の入場は、開始後20分までとし、途中退場は認められません。

地方会終了後、17：00より同会場にてサテライトセミナーが予定されています。

# 第402回日本泌尿器科学会新潟地方会 サテライトセミナー

日時：2022年9月10日（土）17：00-18：00

場所：パストラル長岡 5階 『未広の間』

住所：長岡市今朝白2丁目7番25号 TEL：0258-35-1305

## 【特別講演】

座長 新潟大学特命理事 医歯学総合病院長（泌尿器科教授）  
**富田 善彦 先生**

『プロステートヘルスインデックス（phi）  
：前立腺癌診断・治療での活用ポイント』

演者 医療法人 社団美心会 黒沢病院 院長  
**伊藤 一人 先生**

※当日は、軽食をご用意しております

---

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会 武田薬品工業株式会社

# 研究会参加者健康チェック票

研究会名：第402回日本泌尿器科学会新潟地方会

日 時：2022年9月10日（土）

所 属：\_\_\_\_\_

氏 名：\_\_\_\_\_

自宅電話番号：\_\_\_\_\_

	チェック日	体温 (°C)	症 状※								
		朝	咳	のどの 痛み	鼻水・ 鼻詰り	頭痛	下痢・ 腹痛	強い だるさ	息苦しさ	その他	左記 すべて無
1日目	8月28日										
2日目	8月29日										
3日目	8月30日										
4日目	8月31日										
5日目	9月1日										
6日目	9月2日										
7日目	9月3日										
8日目	9月4日										
9日目	9月5日										
10日目	9月6日										
11日目	9月7日										
12日目	9月8日										
13日目	9月9日										
14日目	9月10日										

自ら行った対処{ \_\_\_\_\_ }

(例) ○月○日医療機関を受診した, ○月○日に保健所に連絡した, ○月○日市販薬を内服した, などを

※ 症状の各項目に, ある場合は○, すべて該当しない場合には「左記すべて無」に○を付けてください.